

## ご欠席委員からのご意見

平成 28 年 7 月 15 日

## 朝日 重剛委員

- 全体的な構想イメージはつかむことができますが、それぞれのビジョンをどうやって実現させるのか、具体的な施策をもう少し盛り込まないと、せっかくのビジョンが「絵に描いた餅」になってしまうのではないかと懸念があります。

具体的な施策に合わせて、30年後のビジョンの実現に向けて通過点の10年後・20年後の段階的な達成像を示すことも必要で、それがないと「実行～達成～満足～次ステップへの挑戦」といった達成に向けたスパイラルアップを図ることはできないと考えます。

ビジョン・将来像を実現させるには、産・学・官・金と県民一体となった動きが必要であり、どのひとつが欠けても実現は不可能です。とりわけ県民の理解が大事だと思いますが、それを得られるにはやはり具体的な施策とその成果の見せる化が必要だと思います。

なかなか県民全体の理解を得られるには時間がかかる筈で、まずは出されているビジョンの達成に向けできるものから具体的目標値（数値化できないものも多くありますが）を掲げて動き出すことが重要です。例えば、大ゴールデン回廊とは云っても、現に、大阪経済界からの評価は「富山は関東圏に入った」と私たちが考えてもいないことになっています。早期の敦賀までの延線と関西までの最終延線の時期確定が急務です。

各団体の連携という点では、全国でも数少ない薬学関連の高等学科、県立大学に創設される「薬業製造科」と県内製薬業界との連携、同じく県立大学に創設される「知能ロボット学科」と優れた製造技術を有する県内企業との連携など、官主導で動きの第一歩を踏み出させるきっかけを作ることのできる事例があります。

掲げられたビジョンの真価を問うことももちろん大切なことですが、まずできることから動くことも必要なのではないでしょうか。

**稲垣 晴彦委員**

**【弱みについて】**

- 耳障りなことも避けるべきではないと思います。

文化面では地域に密着した伝統文化における強みはあるものの、歴史に裏打ちされ洗練された文化という面では明らかに近県に劣っていると思います。

しかし、その弱みを地域間連携を通じて強みにかえることもできると思います。

文化は創造（生産）するだけでなく享受（消費）されることで、そのレベルがスパイラルアップしていくものと考えています。残念ながら今までは勤勉な県民性が、多様な文化を享受するところを育むことの阻害要因となっていた側面があると感じています。価値観の変換を通じて強みである豊かな自然と地域伝統文化がしっかりと結びついたより深みのある文化へ昇華していくことを期待します。

**【ビジョンについて】**

- 望ましい未来を実現していくためには多くの変革が必要であり、その中には痛みを伴うものもあるということをまずは明言すべきです。

産業面では成長へのダイナミズムを保ちながらも企業の集約による規模の拡大は避けて通れません。また付加価値の拡大という面ではどちらかといえば中間財を中心とした製造業の最終消費財への転換とブランド化の推進が必要と思います。

このような変革を実現していくのはもちろん人であります。人材の強化と育成が最も需要です。強化という意味ではよそからの優れた人材をこの地域に取り込んでいくための開かれた意識の醸成が必要です。育成では学校、家庭だけではなく企業を含めた地域社会が教育がかかわっていくことがさらに求められると思います。

田中 一郎委員

○2020年まで『年少人口』『生産年齢人口』の減少化

⇒『老年人口』の増加、その後『老齢人口』の維持減少化

2045年には『老齢人口』減 ⇒『高齢人口化時代』の到来

○「高齢化時代」の働き方を研究する必要があるのでは

1日 8H ⇒24H稼働（午前、午後、10:00~14:00~17:00~  
21:00~1:00…）

多様な組み合わせの時代もくるのでは。男女高齢者も含めた。

○そのためには若い頃からの生涯健康体づくりが大切です。

雪国である故、冬場でも活動ができ、観ることができるコンパクトな施設も必要なのは。